令和5年度 第1回 高砂市総合政策審議会 全体会

議事録(要旨)

<table>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="6">令和５年５月30日(火)9:30～12:00</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="6">高砂市役所南庁舎5階大会議室</td></tr>
<tr><td>会長
副会長</td><td colspan="6">山口 隆英 会長
田端 和彦 副会長</td></tr>
<tr><td rowspan="10">委員
(名簿順)
出席25人</td><td>出席</td><td>中尾 進委員</td><td>出席</td><td>藤井 加代子委員</td><td>出席</td><td>松井 藍委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>松本 克英委員</td><td>出席</td><td>前田 弘子委員</td><td>出席</td><td>塩﨑 篤史委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>寺延 順市委員</td><td>出席</td><td>倉谷 亜由美委員</td><td>出席</td><td>山里 護委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>西牟田 和子委員</td><td>出席</td><td>濱中 美佐子委員</td><td>出席</td><td>眞榮 和紘委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>松村 進委員</td><td>出席</td><td>清水 美代子委員</td><td>出席</td><td>松田 勝己委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>田端 和彦委員</td><td>出席</td><td>東野 アドリアナ委員</td><td>出席</td><td>山口 隆英委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>稲垣 稔委員</td><td>―</td><td>大西 正起委員</td><td>―</td><td>後藤 純次</td></tr>
<tr><td>―</td><td>大森 裕</td><td>出席</td><td>新井 誠三</td><td>―</td><td>江畑 達也委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>破魔 淳司委員</td><td>出席</td><td>山口 光一委員</td><td>―</td><td>坂本 竜之介委員</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>大竹 良次委員</td><td>出席</td><td>掛川 伸治委員</td><td>出席</td><td>野北 浩三委員</td></tr>
<tr><td>議事</td><td colspan="6">協議事項
(1)会長、副会長の選出について
(2)審議会の運営に関する規定について
(3)審議会の公開について
(4)第5次高砂市総合計画令和５年度・4年度実施計画について
(5)部会の設置について
(6)地方創生推進交付金(高砂ワクワク自転車プロジェクト)について

その他
(1)今後のスケジュールについて
(2)その他</td></tr>
<tr><td>資 料</td><td colspan="6">事前配付資料
次第
高砂市総合政策審議会委員名簿
高砂市総合政策に関する条例
高砂市総合政策審議会規則
高砂市総合政策審議会の運営に関する規程
高砂市情報公開条例(抜粋)
高砂市総合政策審議会の公開について
別冊で第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン)令和4年度と令和5年度</td></tr>
</table>

	令和4年度地方創生推進交付金に係る効果検証 新たに今回委員となられた方へは第5次高砂市総合計画冊子 当日配布資料 総合政策審議会委員名簿部会案

議事の経過

開 会

＜本日の資料の確認＞

＜本日の進行について説明＞

＜出席者・事務局紹介＞

＜会議の成立＞

＜高砂市長　挨拶＞

＜委員委嘱＞

協議事項　1　会長、副会長の選出について

（事務局）

「高砂市総合政策審議会規則」において第5条「審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。」と規定している。会長、副会長を定めることについて、特に意見等が無い場合、前任期で会長、副会長をお願いしている。兵庫県立大学の山口委員を会長に、兵庫大学の田端委員を副会長に提案したいと考える。承認いただければ拍手で承認をお願いする。

（拍手で承認）

田端委員は副会長席に移動。田端副会長から一言挨拶をお願いする。

（副会長）

会長を補佐しながら、会を進めていきたい。大変役割が多い委員会であるため、煩雑になることも多いと思う。できるだけ整理して皆様に伝え、意見を聞きたいと思うので、よろしくお願いする。

（事務局）

ここからの議事進行は副会長にお願いする。

協議事項　2　審議会の運営に関する規程について

（副会長）
　事務局から説明をお願いする。

（事務局）
　「高砂市総合政策審議会の運営に関する規程」第5条にあるとおり、前任期でも2つの部会を設けており、今回も第5次総合計画の基本目標「②まち」と「④行政」、「①ひと」と「③くらし・しごと」に沿って2つの部会を設ける。名称と所掌事務は記載しているとおりである。

（副会長）
　質問等よろしいか。

（質問等なし）

（副会長）
　この形で会を進めていく。

協議事項　3　審議会の公開について

　事前配布資料「高砂市情報公開条例（抜粋）」にあるとおり、情報公開の趣旨に基づき、本日の審議会も、公開にて開催している。前任期から引き続き「高砂市総合政策審議会の公開について」により公開したいと考えており承認をお願いする。

（副会長）
　質問等よろしいか。

（質問等なし）

（副会長）
　この形で会を進めていく。途中でお気づきの点があれば、声掛けをお願いする。

協議事項　4　第5次高砂市総合計画令和５年度・4 年度実施計画について

（副会長）
　事務局から説明をお願いする。

（事務局）
　総合計画の説明の前に、会長より一言挨拶をお願いする。

（会長）
　副会長と一緒ということで、安心して会が行える。今後ともご指導をお願いする。

（事務局）
　第５次高砂市総合計画実施計画（行政経営プラン）令和5年度に基づき概要説明

（副会長）
　初めての方にはなかなか難しいと思うので、計画について体系的な説明があるとありがたい。昨年度から引き続きの方はよくご存知の通り、最上位計画である総合計画と言われる行政の計画がある。それとは別に国の方針により、地方創生に関連した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が作られている。
　総合計画と総合戦略でどちらが上かというのは市によって異なるが、高砂市の場合は、上位計画である総合計画を推進するための戦略プランとして、具体的な内容である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がある。
　総合計画には「まち」、「ひと」、「くらし・しごと」、「行政」と4つの方向性があり、その各政策をどのように評価するかが重要である。人口、出生数、転出超過数なども評価の部分であるが、厳しい状況であると言われている。これらを改善していくための重点的な取組として、高砂市では「ゼロカーボンの推進」、「子ども、子育て」を進めていく予定である。
　また、国では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中に、デジタルに関する考え方である「デジタル田園都市構想」が加わったが、高砂市では既に行っている DX 推進計画に沿って進めていくとのことである。全体像を把握しながら、資料を読み込むのは大変だが、ご質問等あれば質問いただきたい。

（委員）
　第1部会を「共創」・「共治」部会、第2部会を「共生」・「共感」部会となっているが、規定によると逆になっている。

（副会長）
　規定と総合計画の関係が、逆になっているという質問である。回答をお願いする。

（事務局）
　後程、回答する。

（委員）
　10ページにある重点取組について、ゼロカーボンの推進をきっかけに地域経済活性化の起爆剤にしたいという話があった。県もゼロカーボンの推進を重点的に取り組んでいくので、ぜひ、共に進めていきたい。また、デジタルについても同様である。
　2ページの総人口、或いは出生数等において、県の他地域と比べた高砂市の特徴的な動きはあるか。

（事務局）
　高砂市の人口移動の特徴として、年代で見た際に20歳代の転出超過が多いものの、0歳から9歳については転入超過傾向が続いている。一旦高砂市から転出するものの、小さい子供を連れた

方の転入が一定数あるのではないかと考えている。

（委員）
　30歳代、40歳代はどうか。

（事務局）
　30歳代については転出超過ではあるため、小さいお子さんを連れて転入する方は一定いるものの、例えば単身の30歳代の転出がそれを上回っていると考えている。

（委員）
　人口千人あたりの出生数を指標にしているが、合計特殊出生率ではないのか。また、現状維持するには何人の出生が必要なのか。
　別の会議で、高砂市は10代後半と20代後半の女性が非常に少ないのが特徴だと聞いたが、そうなのか。

（事務局）
　合計特殊出生率について、県全体の数字は毎年公表されているが、各市町ごとは5年に1回の公表になるため、前年中については把握をしていない。そのため、現在、目安になるのが人口千人当たりの出生数になると考えている。
　何人の出生数があれば維持できるかは、数字を把握していない。ただ、1,000 人あたりの出生数を見るときに、県や他市町との比較の方を行っており、出産に関する状況について分析をしているところである。
　ちなみに、令和3年の人口当たりの出生数について、今回高砂市は6．06となっているが、兵庫県全体では6．51、姫路が7．28、明石が8．96、加古川市が6．93と、県平均を下回っている。これに関連するものとして人口 1,000 人あたりの婚姻件数では県平均の 3.83 に対し、高砂市は 4.04 と上回っている。
　出生については、結婚された方が必ずしも子供を産みたいという考えを持っているわけではないため、一つの目安でしかないが、数字上では、高砂市では平均以上に結婚しているが出産までは至っていないという分析である。

（委員）
　他市との比較ではなく、高砂市の人口が現状維持に向けてどうなっていくかが重要である。

（副会長）
　合計特殊出生率は約2．1を上回ると人口維持と言われているため、そういう意味では分かりやすい。ただ合計特殊出生率の算出には、各年齢別の女性の出生数を出さなければならないが、それがない。今あるのはおそらく出生届の数字を人口で割っているものだと思う。
　10代20代は出生可能年齢女性数というが、実は40代まであり、それが合計特殊出生率の根拠になる。その中で特に出生率・出生数が高い10代20代の女性の数が少ないことは、合計特殊出生率算出において非常に大きな影響がある。

兵庫県では他県より先駆けて5歳刻みの合計特殊出生率を出していたと思うが、例えば東播磨レベル等での把握などはあるか。

（審議会出席者で確認はとれず）

（副会長）

合計特殊出生率は重要な部分であり、人口維持が可能であるか、今後の転出超過抑制や自然増施策に何が必要であるかの根拠、基盤になるものである。統計の作り方の相談や、県にも統計の専門家もいるため相談するのも一つの方法であるかと思う。

（委員）

学校給食が有料であることについて、子育て支援でお金をもらって、そこから給食費を引かれることに、無駄なことをしているように感じる。ブラジルでは給食費は無料である。給食を無料にしないと学校に行かない、ご飯食べに学校に行かせるため形をとっているが、高砂が給食費を無料にし、明石のように人を引っ張ってくるのはどうか。検討いただきたい。

（副会長）

学校給食についての現状とこれからの提案として、無償化という意見が出たが事務局で把握していることはあるか。

（政策部長）

給食について、様々な検討は行っているものの、無償化するには、相当大きな財源が必要であり、財源確保のためには、他の事業について検討していかなければならない。全体的な予算の枠組みの中で、現時点では無償化に至っていない。

（副会長）

欠食児童と言われる朝食をしっかり食べられない児童も増えてると聞く。

もともと給食は戦後の食糧難の時に作られており、その後は、食文化等の多様な目的に変わっていった経緯がある、改めて給食の重要性が今注目されるべきではないかという意見であると思う。

（委員）

JR曽根駅の再整備の話が出たが、山電高砂駅周辺のように買い物難民はまだ解消されてない状況であると思う。市の玄関口としては、加古川では加古川駅、明石であれば明石駅になるが、高砂市では、曽根駅と高砂駅、どちらを玄関口として、今後考えていくのか。

（副会長）

どちらを玄関口にするかで、優先的な整備にも関わってくるかと思うが。

（事務局）

高砂市にはJRで2駅、山陽電鉄で4駅、計6つの駅がある。市としては駅周辺の整備に力を入れ

ており、駅周辺整備プログラムではすべての駅についてどのように整備していくかという計画を作っている。計画の中で、まずJR曽根駅を着手していくということにしているが、各地区ごとに様々な経緯、経過があるため、どこを拠点にするかというのは難しい部分がある。

現在、地元の方々も含めて、まちづくり協議会ができているところであり、高砂駅や曽根駅、荒井駅などで進んできている。そういうところから順番に手をつけていくことになるが、都市計画の中で、地区ごとの役割や特徴を打ち出したまちづくりを行っていくことを考えている。

先ほど、女性の数が少ないという話が出たが、過去の審議会で高砂市には大企業がたくさんあり、働く場所は多くあるという発言をした際に、公募委員である女性の大学生の方から、就業したいような職種が少ないのだという意見をいただいた。そのような理由もあり、女性が市外に出ていくという部分もあるのかと思う。

（委員）

例えば観光などで市外から高砂に訪れるときに、玄関口は曽根駅なのか高砂駅なのか。市外から来る方のための目印はどちらになるのか。

（副会長）

現在の整備の方針では、市の顔を作るというのではなく、整備ができるところから始めていくということなので、そこら辺の戦略はおそらくまだないのではないかと思う。都市計画マスタープランではそういう考えはあるのか。

（事務局）

都市計画マスタープランの中では、地区の特色を持たせて開発をしていく形であり、どこかに重点を置いていくというより、全体的にバランス良く整備していく方針である。

（副会長）

高砂市の一つの特徴かもしれない。

（委員）

鉄道関係の話が出たが、市内には踏切で危険な箇所もある。以前から高架化というよう話も出ているが、高架と駅前開発も関連して計画が進められているのか。

（事務局）

県の事業として、山陽電鉄の連続立体交差の事業が取り上げられている。県民局、土木事務所等の協力をいただきながら、市としても周辺整備も含めて取り組んでいかなければならないと考えている。山電高砂駅、荒井駅のあたりについては、連続立体も視野に入れて計画を進めているところである。

（副会長）

基本的には駅を上げていく、踏切はできるだけ減らすというのが国の方針であるため、駅前再開発とセットになっていくのだろうと思う。

（委員）
　JRの宝殿駅、曽根駅周辺の方から、運行の本数の少なさについてよく相談がある。駅の整備が進んでも40、50分に一本の運行では意味がない。例えば東姫路駅の免許更新センターに行く際に、行きは時間見ていくが、帰りには40分ぐらい待つことがある。沿線の自治体として利便性を改善しないと、駅を整備しても乗客につながらないと思う。

（副会長）
　重点方針の説明でも、交通移動の利便性向上があったが、行政としてできることとしては、駅前再開発、或いは駅までの移送というのが考えられる。
　高砂で住みたい、子育てをしたいが働く場所がない、都市部へ働きに出るということになっても山陽電鉄だと1時間以上かかるため、交通利便性は出生数の問題等にも関わる話であると思う。JRとの話になるので難しい部分であるが市では何か対応はあるか。

（事務局）
　JRの増便については、姫路市を含めた近隣市町と歩調を合わせて要望をしているところであるが、乗客乗員数との絡みもある中、なかなか進んでいない状況である。引き続き要望を続けていきたい。高砂市単独ではあまり効果がないと考えるため、近隣市町と連携し要望していくことが重要であると考える。

（委員）
　コロナも落ち着き、観光も盛り上がってきている。今後インバウンドや万博もあるなか、観光に力を入れて、市の活性化や、市外から多くの方々が来てくれることによって、まちへの愛着、誇りにつながる考える。そういったことまで観光は担うべきであると考えているが、実現のためには費用や人が必要である。観光ビューローの活動に対して、行政からのバックアップやフォローを希望するが、これから観光に力を入れて伸ばしていこうというお考えがあるのか。今後高砂市の観光行政としてのビジョンをお伺いしたい。

（事務局）
　ビューローには観光の中心になり、市のPRも含めてしていただいいる。高砂市の観光の考え方を現在、検討しているところであるが、京都や神戸、姫路のような観光の進め方をしていくことは難しいと考えている。高砂市は高砂市のやり方、地に足をつけた観光があり、市の様々な市内外の方に知っていただくという考え方を持って、観光についても今後も進めていきたい。

（副会長）
　政策3－3に「観光基盤の強化」とあるが、入れ込み客数と合わせて考えてみて、現在の目標値はどうなのか。それを踏まえて、より力入れていくのか、力を入れるとするとビューローとどのように連携していくのかという考えがないと総合政策審議会としてはいけないと思う。高砂市に即した市の観光の仕方を整理する必要があると思うが意見はあるか。

（委員）
　もっと高砂市をアピールして欲しいと考える。例えば給食の無料化、高校生の医療無料化などについては、他市が先駆けて行っている。今まで実施できない中で、要望を続けた結果、最終的に実施しているが、結局実施するなら先んじてしてもらいたい。観光についても地に足を付けてやっていく形で良いのか。すべて行うには費用的に難しいという話になるが、優先順位というか、アピールになる斬新的改革的への方向性を期待したい。

（副会長）
　総合的な意見として、非常に重要なところである。令和4年度の最終評価を見ると、「市の観光の考え方を整理する必要がある」とある。また前年度の審議会の意見では「市民であっても市の魅力を知らない」という意見が出ていたが、これらを考えると、観光について審議会で十分な議論がされてないような気がする。今回の指摘は重要だと考えるので、令和5年度の評価時に改めて議論をしたい。

（委員）
　新しく地域交流センターが曽根にできるが駐車場が40台ほどしかないという聞いている。地域交流センターなので地域の方がたくさん来られると思うが、曽根駅からも近いため駅を利用する方が駐車してしまわないか不安である。駐車場に特に制限なく入れるような話も聞いているため、ユーアイ帆っとセンターにように駐車券等で施設を利用している人しか使用できないシステムが必要である。
　また第1期から計画を進めていく中で、いろいろ消えてるワードがあると思うが、ブライダルは無くなってしまったのか。昔からブライダルと言ってきたものの、結婚式場もなく難しいところはあるが、高砂は高砂席と言われたり、じょうとんばの話がある。結婚に結びつくのは難しくても、ご縁の町や結びの町だと思うので、ブライダル＝結婚というよりも、それまでの過程として、結びや繋がりでご縁があるという形で出てきてほしいと思う。

（事務局）
　駐車場については、現在のところ過去の利用の状況等を考えて40台の枠で考えているが、駅の利用者の駐車も可能性としては考えられる。今後、利用状況を見ながら検討したい。対応する場合、ユーアイ帆っとセンターのように、入場には一定の制限、料金がかかるというようなことも考えられる。
　ブライダルについては、市から出しているチラシ等に「結び」、「ご縁」のようなキャッチフレーズや項目を入れているものもある。今、検討を進めている高砂市制70周年では、結びということを基本の考え方とし進めていくことを考えている。ブライダルへも「ご縁」や「結び」なども含めてたPRを今後検討していきたい。

（委員）
　以前からブライダル都市として掲げていたが、現在も事業課はあるのか

（事務局）
　ブライダル都市という宣言自体は継続しており、現在はシティプロモーション室がブライダルのPRを担当している。

（委員）
　これから子ども支援をしていくということを謳われており、ブライダルについても関連して意見が出てくると思うため、事業課の確認を行った。

（事務局）
　シティプロモーション室では、広い意味で市のプロモーションを行なっており、ブライダル宣言をしていることもあり、その中に入ってくるものと考えている。

（委員）
　従来から観光というと、人数を増やしていこうという政策であり、以前からナンセンスであると考えていた。イベントをすれば一時的に人が集まるが、交通も混雑するし、商業者の方がビジネスを展開していこうとなると、12 ヶ月、毎週のようにお客さんが来てくれるか、毎月きちんと客が来ないと成り立たない。例えばイベント1日だけで10万人来たとしても、10万人が幾らお金を落としてもビジネスは成り立たない。姫路市の観光ビューローでは、目標を人数から金額に修正している。客が今 3,000 円落としているのか、それを 5,000 円にするのか、1万円を目指すのかにすれば、混雑しないまま、市内の事業者さんが潤うという仕組みができるので、新しい考えとして検討していただく時期に来ている。
　高砂市の 85,000 人を維持しようとすると千人当たりの出生数6．06を11か12、ほぼ倍にしないと維持できない。現状年間500人ほどの出生数を 1,000 人ぐらいにしないといけないが、途中で病気、怪我、事故で亡くなったり、転出も含めれば、1,050 人ぐらいの子供が生まれてこないといけない。厳しい言い方だが、そこを目指すのはナンセンスではないかと思う。どのあたりで人口を着地させて、住みよいまちをつくる方向を目指さないと、現状と規模が違いすぎて非常に困難であると思う。

（副会長）
　観光の指標については5年度の観光政策を評価する際にまた議論する。

（委員）
　ゼロカーボンの推進について、先日、行政からごみ指定袋について4月から啓蒙啓発活動に携わっていくという説明があった。行政としては指定袋を使うのはごみの減量ということを第一に挙げ、1枚単価は安い値段の話になるかもしれない。指定袋の価格を質問した際に、市が価格を決定するのではなく、販売店ごとに異なり、大体12、13円ぐらいであるとのことだった。現在ごみ袋は1枚で6円ぐらいだったと思うが、先行で導入している加古川市では8円から13円ぐらいである。
　焼却炉は高砂市に設置しており、事務委託料が市に入ってくるため、市民への還元も質問したがパッカー車や道路に使用しており還元はできないとのことである。加古川市は高砂市に委託料を払っており、仮に加古川市の指定袋を10円とした場合、高砂市では8円や9円ぐらいの価格を設

定して欲しいと意見として述べたが、そのあたりをお願いしたいと思います。

（副会長）
　言い方は良くないがごみ焼却場迷惑説という考えもある。そこを高砂市が背負っているという気持ちもあろうかと思う。昔、東京ごみ戦争というのがあった時にも、このような議論があったが、場所を負担しているのに、他の負担が減らない。市民感覚的な意見かと思うが回答はあるか。

（事務局）
　価格についての細かい数字は持っていないが、ごみ袋の金額を決める際には、生産する枚数、売れる枚数によって単価の差が出るので、人口の多い加古川市に比べると高砂市では単価としてはやや不利になってくると聞いている。
　委託料についてはごみの償却等にすべて使っているというところ、また事前の地元対策に対しても他市町から一定の費用をいただいて対策をしているところもある。本日ご答弁できるのはこれぐらいである。

（副会長）
　市の補助等で減額して販売することもありうるだろうとの意見だと思う。今後の検討材料としていただきたい。

（副会長）
　この審議会は本当にいろんなことをやらないといけないが、それぞれの立場、様々な観点から意見を受けることで行政が良くなっていくと考える。
　行政としては、計画を作ればその通りに、いかに粛々と進めていくかということが、どうしても目的になるが、市民感覚と合わないところは必ず出てくる。その部分を指摘いただくことが非常に重要である。先ほどのごみ袋や給食費の問題はまさに市民感覚の話なので、意見をいただくことが、行政を改革していくうえで非常に重要な観点になる。
　次に部会設置についての説明を改めてお願いする。

（事務局）
　ご指摘いただいたとおり、配布している規定と、振り分けさせていただいた部会部分の整合性が取れていなかった。最新の規定を今からお配りさせていただく。部会、担当部会の割り振りの案をすでに示しているが、担当していただく内容はそのままに、第一、第二の数字が変わる予定である。申し訳ございませんでした。
　30人の委員を、15人ずつ、この二つの部会に割り振っているが、前任期での所属や、新しい委員の方は公募面接等でいただいた意見を参考に割り振りを行っている。違う部会の変更を希望される方は6月中に企画課まで別途連絡をお願いする。

（委員）
　自身が防災士のため、部会を変更することは可能か。

（事務局）
　面接の際に防犯関係とお伺いしており、振り分けは「共創」・「共治」にしている。防災・防犯については「共創」に含まれているので問題ないと考える。

（副会長）
　他に変更の希望があれば別途連絡をお願いする。

協議事項　6　地方創生推進交付金（高砂ワクワク自転車プロジェクト）に係る効果検証について

（副会長）
　高砂ワクワク自転車プロジェクトについて事務局から説明をお願いする。

（事務局）
　事務局から資料に沿って説明

（副会長）
　高砂ワクワク自転車プロジェクトについてご意見ご質問があればお伺いする。

（委員）
　コロナ禍も終息し、これからは人がさらに動いてくることが見込まれるため、ビューローとしてもより良い成果を目指してやっていきたいとは考える。

（副会長）
　大きく二つ目的があり、いわゆるコンパクトシティ化を目指すということである。もう一つはビューローと連携し、自転車を使って高砂市をよく知ってもらい、観光の面で、PRにもなるということである。またゼロカーボンにも関わることであると思う。
　先日ギリシャ、アテネに行ったが、観光シーズン前にも関わらず本当に観光客が多かった。欧米の方は自転車を使っての観光客が多く、有料だが自転車移動でもツアーの案内の方がついていた。そういう意味で、自転車を使った観光は一つ方法として有りだと思う。

（委員）
　自転車を利用される方に、高砂市の見てもらいたい、行っていただきたい場所のパンフレット等は配布しているか。

（事務局）
　令和3年度に、高砂ちゃいくりんぐマップを作成しており、そこに市内の観光案内が含まれている。

（委員）
　高砂ワクワク自転車プロジェクト自体は非常にいいことだと思うが、高砂市は県内で自転車事故が一番多い。観光関連でのプロジェクトだが自転車事故全般にも気をつけねばならない。昨今、自転車に乗る場合のヘルメット着用努力義務が言われているが、高砂市の場合は努力義務ではなく、必須義務として条例を作っても良いのではないかと思う。

（副会長）
　自転車事故対策についてはプロジェクトに交通安全啓発も含まれている。今年から努力義務化するため今後変更、変化していくと思う。条例設置で義務化すると、違反時に何らかの対応が必要になるため、条例としての法的根拠が必要であり、国土交通省とも調整をしなければいけない部分があるが。

（事務局）
　ワクワク自転車プロジェクトの取組として、ソフトとハードを含めた交通安全啓発事業を行っている。自転車を単に使うだけでなく、安全にどう使うか使っていただくかが重要である。プロジェクトの一環として、本庁前道路に自転車の専用通行帯等を色分けして作っているが、県に協力をいただきながら自転車ネットワーク整備を進めている。
　高砂市の自転車事故の多さについては、引き続きしっかり取り組んでいきたいと考えている。ヘルメットの着用の義務化については法律の上乗せというような形が今できるのかどうかも含め検討していくが、事故が起きた時の予防だけでなく、前段階として事故が発生しないようにも取り組んでいきたい。
　個人的には努力義務が中途半端な印象も受けるが、市として啓発をしていくことで、ヘルメット着用に繋げたいと考える。

（委員）
　ヨーロッパでもポルトガルのように道が細くて国は徒歩を推奨している。申し訳ないが高砂は自転車には向いていない町だと思う。
　昨年、学生に自転車で高砂を回ってもらった際に、距離の遠さと道の細さのため、普段自転車で通学している生徒でもきついと言っていた。少し徒歩を加えて、ポイントとポイントをつなぐ無料バスにするなどの方が現実的ではないかと思う。

（委員）
　若い時に、サイクリング協会で自転車の普及活動を長年行ってきたが、今は自転車が怖くて乗れない。年齢のこともあるが、自転車で走ると、あちこち回るという発想にならないのが実情だと思う。徒歩が正解かも分からないが。

（委員）
　ワクワクプロジェクトでは事業目的として、高砂を知ってもらい、来てみたい、見てみたい、住んでみたいということが挙げられているので、市ノ池公園を市のPRに含めるのはどうか。坂道があり、自転車では寄りづらい場所ではあるため、鹿嶋神社には行くものの市ノ池園には行かない人も多

いと聞く。新しい遊具も増えており子どもにとっても売りに出せる場所だと思う。
　市ノ池公園には絶滅危惧種のトンボが3種類もおり、セトウチサンショウウオという絶滅危惧種のランクが上がってしまったような、すごく貴重な虫や動物が生息している。自然というと県の中でも北のほうをイメージしやすいと思うが、沿線上で、それだけの自然が確保されているっていうのは、すごいことだと思うし、もっと大事にされていい公園だと思う。その知識がないから、池の掘削などで自然を破壊している部分があり、大変もったいない。市ノ池公園は整備が進んでいるので魅力として含めてもらいたい。

（副会長）
　整備状況等を含めて回答が難しいかと思うので、意見としてたまわることでよろしいか。
まず1点目として観光面では効果があり今後拡大して欲しいというところ。一方、安心安全について課題が残っており、啓発だけではなく一歩進めた安全対策が必要であるということ。
　市内のまちなかでは、自転車は危険な部分もあるため、徒歩を含めた移動のメリハリの検討をとの意見もあった。広域的な広いエリアでは自転車が有効だが、狭いまちなかでは徒歩やコミュニティバス、或いはバスに自転車を乗せるなどの組み合わせもあると考える。
　今後いわゆる原付が環境の問題で使えなくなってくると、電動付アシスト付自転車やキックボードに移り変わっていく。電動キックボードは安全対策としては非常に問題であり、ヘルメットの義務化はより考えていかないといけない。事故が起こらないようにするというのは、行政としてはそうかもしれないが、事故が起きた際に命をどう守るかというのが投資としては効果的かもしれない。意見等を参考に他とは違ったアプローチを高砂市としてしているということでPRに繋がる可能性もあるかと思う。審議会の意見として、このワクワク自転車プロジェクトを通して高砂市が新しい交通のリーディングシティになるというようなことも付け加えたいと思い、令和4年度事業に対してのまとめにしたいと思う。
　一部会、二部会の部会長を決めなければいけないが第一部会（共創・共治）は山口先生にお願いする。第二部会（共生・共感）については私の方で進めさせていただきたいと思う。

その他

（副会長）
　事務局よりその他のことについて説明をお願いする。

（事務局）
　市政全般に関する市民満足度調査を8月に実施する予定としている。無作為抽出した1,000人に対して郵送によるものと、インターネットから回答していただく方法を想定しており、委員の皆様からのご回答もお願いしたい。
　次に、部会の日程では本年10月頃を第2回目で予定しており、9月頃には日程調整をさせていただく。また、第3回目については、現在のところ令和6年1月開催を予定している。次回以降の会議についても、本日と同じ高砂市役所南庁舎で開催したいと考えているが、変更になる可能性もあるため都度お知らせする。